

# 麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 —麻生鳥のさえずり公園—

第 43 号 2015 年 1 月 31 日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

## 森にひびけ みんなの元気…第 14 回植樹祭&収穫祭報告 実行委員長 間野 洋

今回の植樹祭&収穫祭は、初めて当会・多摩美みどりの会・川崎多摩美の山トラストの会の 3 団体の共催で 11 月 16 日（日）、約 210 名の参加の中、盛大に開催されました。

コンセプトは「森にひびけ みんなの元気」、キャッチフレーズは「森のごちそう、遊び、音楽で祝おう」としました。当日は風もなく快晴で、開会行事のあと記念植樹。子どもたちと父母を 3 班に分け、クロガネモチ・ヤマザクラ・ソヨゴを 2 本ずつ植え、樹種名の名札に植樹者の名前を記入しました。

続いて「ケン玉遊び」。日本ケン玉協会の吉村氏（五段）によってまず名人芸が披露され、みんな拍手喝采。その後子どもたちが、指導を受けながらけん玉に挑戦。上級者には協会より一級・二級の免状が手渡されました。初めての試みでしたが子どもたちも楽しく遊び大成功でした。

収穫祭は多田麻生区長の祝辞と乾杯の音頭でスタート。森のごちそうは当森の畑で収穫した里芋がメインの豚汁と茹で里芋（柚子味噌付）で今年も美味しいと好評でした。ま

た、子どもたちにはフランクフルトソーセージとマッシュマロ焼きが振る舞われ、参加者みなさんの交流は大いに盛り上がりました。

森の音楽会では、今回初めて「多摩美太鼓」に登場してもらいました。成富代表のもと小学生 8 人の孫弟子が力強い演奏を披露しました。25 年前の設立以来、多摩美八町会の盆踊りで活躍していることは皆さんご存知のとおりです。

次に当会会員の新井夫妻、7 年ぶりの出演です。最初にお二人でアルプホルンの演奏、次に奥様のクーグロックン、最後に篠笛とアコーディオンのアンサンブルで豊かな音が森に響き渡りました。

祭りの跡片付け終了後、山本多摩美町会長、地域振興課の鈴木氏を含め約 30 人での懇親会も盛り上がり 15 時半に終了しました。

今回も地域の皆様との触れ合い、交流の大切さが実感できました。開催に当たり、3 団体実行委員およびいろいろな場面で尽力された会員諸氏、また各種料理にご支援いただいた方々に厚く御礼申しあげます。



名人の指導でけん玉を楽しむ



小学生による多摩美太鼓の演奏

## ◆ 西生田小5年生、3年生 「森の体験学習」実施される 副会長 中谷一郎

### ● 5年生「環境体験学習」

5年生 132名の環境体験学習が、10月15日(水)午前中、麻生区市民健康の森で時々小雨の中実施されました。天気の関係で、全クラスを1日で行ない、何とか終了できました。会員は11名の参加でした。

学習内容は昨年と同じく、①暮らしに役立つ植物たち、②樹木の二酸化炭素吸着量の測定の2テーマを半数交代で実施。

まず、間野会長がこの日の学習の全体的な説明をし、とくに樹木の役割、葉の光合成のしくみ、樹木が吸収する二酸化炭素の計算方法を分りやすく話をしました。

#### ①暮らしに役立つ植物たち



5年生 ホオノキと暮らしのかかわり

里山の草木がどれほど私たちの生活に活かされているかを、自然観察指導員の高橋英さん、佐藤登喜子さん、および会員のガイドで学ぶものです。16人編成の4班にガイド各1人がついて9か所を巡回。

取り上げた植物は、広場周辺のコナラとクヌギ・エノキ・ホオノキ・マユミ・チャ・ミツマタ・クロモジ・ワラビ・ヤマグワ。その中で感心が高かったのは、茶と和菓子(ワラビ餅)で、食べる時の高級爪楊枝(クロモジ)の良い香り。お札など和紙(ミツマタ)のこと。日本の伝統文化も森の植物あってこそ。それらの先祖たちの知恵の説明に感心して聞いていました。木のどこ

ろには樹種名パネルと実物・写真を置きカラーリーフ「観察マップ」を使って説明しました。

#### ②樹木の二酸化炭素吸着量測定

例年通り、班別に樹木の幹回りを測定し、葉面積×吸着指数=C<sub>0</sub>2量(kg/年)を算出し、人間が排出するC<sub>0</sub>2何人分に当たるかを計算しました。

### ● 3年生「秋の森の観察体験学習」

秋の森の観察学習が、11月20日(木)の午前中、全4クラス134名の児童および先生で実施されました。指導は例年と同じく自然観察指導員高橋英さんと会員8名。

学習内容は、①種の旅立ち、②児童が自分で決めた課題(森の樹木・鳥・昆虫等が季節でどう変化しているかなど)で観察、③ネイチャービンゴゲームの3項目。

①種の旅成ちは全員で実施。種の運ばれ方の特徴から、モミジ:風に舞って、クサギ:鳥に食べられて、イノコズチ:動物に付いて、コナラ:落ちて転がるの4樹種を取り上げ、各樹木の所に1人ずつ説明員が立ち、クラスごとに巡回。カラー写真や実物を見せながら説明しました。クサギは今回始めて取り上げ、赤と濃青で飾った2色効果が鳥を呼ぶこと、モミジの種子が羽根



3年生 コナラとクヌギの種の旅成ち

で飛ぶ様子を体験し大喜びでした。

②と③は2交替で行ない、課題観察やビンゴゲームの完成後は、植物見本を置いた藤棚のテーブルに集まり、高橋英講師に熱心に質問をしていました。また子どもたちからは、春・夏の学習も踏まえて10項目の鋭い質問が寄せられ、回答しました。機会があればその内容もお伝えします。

\* \* \* \* \*

### ●香りや色など楽しんで学ぶ「種の旅立ち」

—生物多様性にも少し触れて 木村 信夫

3年生「種の旅立ち」は、五感を使う学習なので、子どもたちにも教える側にも面白い。鳥に食べて運んでももらう教材として、今回はクサギを選んだ。良い点は、その匂いだ。まず、葉をちぎって嗅いでもらう。ウツと顔をしかめる子、「何か知ってる匂い」という子といろいろだが、「だから臭木＝クサギといいます」と名前を覚えてもらう。地方によっては、新葉をお浸しや天ぷらにして食べるので、人の生活との関わりも一言。

次に花の写真を見せると「きれい」。そこで、花はすごくいい香りで、形は蝶が蜜を吸うのに向いているので、夏にはアゲハ蝶が集まること。そして秋、赤い萼片に濃青の実が目立つ。これは実物を見せて、動物の中でも鳥類は色を識別でき、赤と青の二色効果がシジュウカラ・ヒヨドリなどの鳥を呼び寄せること。鳥は果実の養分をもらいながら、筋胃で硬い種を傷つけて発芽しやすくして排泄。植物と動物の助け合いの関係を伝える。

果実からは上品な浅青色の染料がとれる。

クサギはメジャーな樹木ではない。しかし、植物と動物と人間が複雑に関係しあって成り立つ里山の豊かさを見ることができる。5年生でもクロモジやマユミなど余り目立たない林縁植物を取り上げているが、子どもたちには、木々には一つひとつ名前があり、大事な存在であることが新鮮な驚きだ。多様性とながかり合いの学びの一步になればと思う。

### ■ヤマユリ球根を植栽 岡村 克彦

麻生区市民健康の森では開設以来、神奈川県花で、2012年には麻生区の花にも指定されたヤマユリを、身近かに鑑賞できるように、自生のヤマユリの保全や、里山の原風景の復元を目ざして球根の植栽を進めてきました。

本年度は、区地域振興課の助力によって、「麻生ヤマユリ植栽普及会」から球根植栽の援助を受けることになり、森の家南側の「ヤマユリ畑」を拡幅して、11月12日に球根10球を、普及会にお出でいただき植栽しました(写真)。

また、遊歩道沿いの、東斜面下「野草保全区域」には、当初から植付情報や球根提供を受けていた大月の生産者から球根15球を購入し、日当たりや土質改良などの下準備をして12月10日に植栽しました。

ヤマユリは世界に誇れる日本の花と言われ、大切に育成保全してゆく必要があります。これらの育成区域には人や犬の立入りや踏みみのなきよう皆様のご協力をお願いします。



### ■里芋の種イモの室づくり 間野 洋

一昨年の12月、下の畑に土を掘っただけの室を作り150個のタネ芋を貯蔵しました。翌年5月、里芋の植え付けを行いました。半数が湿気のため腐っていました。それで今回は湿気の少ない上の畑の傍に箱型の室を作ることとしました。

箱は厚さ9mmの3×6尺のベニア板を使用し、高さ65cm、幅は各約70cmとし、空気取り入れのため、底板はスリット式、側板にはそれぞれ径1cmの穴を約10cmピッチで設けました。上版は穴を開けず50cmの土で覆いました。さて、結果はこの5月に判明します。

## ●カリタス女子中学校のクリスマス奉仕 中谷 一郎

12月17日(水)、3年生181人全員で実施しました。川崎市公園緑地協会野牛氏の説明の後、A:体を使う森林整え隊(122名)、B:鎌を使うツタ刈り隊(30名)、C:鋸を使う間伐隊(29名)の3隊で作業を開始。

A隊は多摩美ふれあいの森、市民健康の森にまたがる山で枯れ枝を指定場所に集める作業で、生徒が自主的に行動し、当会および多摩美みどりの会会員と人材バンク講習修業者が指導。作業中や終了後に、自生のヤマユリのことや、タンポポ園などの説明をしました。

B隊は鶯のお宿のアズマネザサをおおう蔓の除去を県森林インストラクターの指導で、茂みの中をものともせず敢行。C隊もB隊と同様にインストラクターが間伐の仕方、切枝の処理の仕方を丁寧に指導し、生徒も満足げでした。

もう少し余裕があれば森の大切さも話せたかも知れませんが、すべての所が綺麗になり感謝しています。

## ●「花と緑の交流会」の報告 井上 正樹

11月30日多摩市民館で、緑地保全や緑化推進に取り組むグループの活動の紹介と交流を目的に、「花と緑の交流会」が、延べ388人、パネル展示30団体、ブース出展25団体の参加により盛大に行われた。

活動団体発表は、中原区市民健康の森を育てる会、生田大谷第2公園(東地区)管理運営協議会、水辺のある里山を守る会の3団体。花や森の分科会は「生ごみ堆肥を花壇で使おう」「公園緑地で野遊びのススメ」「花屋の奨める花壇の花」「水辺から見た森の保全と生物多様性」の4テーマで行われた。また、地元出身の若いプロシンガーのミニコンサートは、世代を超えて心に残る花の歌で、場を盛り立ててくれた。竹の器に自由に生けた花を最後に持ち帰ることができるコーナーは大変好評だった。

今回初登場のお土産は、各団体が趣向を凝らし、参加者に無料で配った。当会では雪で倒れた桜の幹を約3cmの厚みに切断した16枚のクラフト材を提供。皆さんに喜んで持ち帰っていただいた。

## ●今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2015年最初の会報です。羊のようにどうか1年がすべてにおいて穏やかでと願います。第13回通常総会が4月25日(土)に開催されますのでぜひご参加ください。会員が減少していますが、今年も継続性を大事に、とくに子どもたちが多摩美の森を知って少しでも理解を深めてもらえるよう、努力したいと思います。皆でゆつたりと活動に取り組み、将来につながればと思います。

2月 7日(土) 幹事会、アズマネザサの蔓の除去、間伐

[夜] オーロラ天文台 星の観測会

2月10日(火) 西生田小3年、冬の森の観察

2月15日(日) 椎茸原木伐採、蔓除去など

3月 7日(土) 里山フォーラム in 麻生

3月 8日(日) 幹事会、畑の追肥、除草

3月15日(日) 畑の耕うん、草刈り、清掃

4月 4日(土) 幹事会、樹木剪定、下草刈り

4月19日(日) 草刈り、ゴミ収集、清掃

4月25日(土) 第13回通常総会

区役所会議室、3:30~5:00

4月に多摩美プレーパーク実施予定あり

5月 2日(土) 幹事会、上の畑の耕うん、施肥

5月17日(日) 里芋植付け、樹木の手入れ

この間補助作業日は第2、第4水曜日です。

10月~5月の作業時間は10~12時です。

★会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。  
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/000028128.html>

◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com